

公益財団法人沖縄県体育協会 創立90周年事業

◆特別功労賞◆

No.	氏名	競技	功績概要
1	またし みつ お 又吉 光夫	水泳	沖縄県水泳連盟創設より、理事・会長として青少年の健全育成と競技力向上に尽力し、長年に渡り県民の水泳、スポーツの普及・推進・発展に貢献した。
2	やまうち しず お 山内 志津男	ボウリング	昭和46年理事に就任以来、ボウリングの普及・振興に努め、昭和52年県体育協会への加盟を始め、昭和62年開催の海邦国体にボウリング競技を国体種目誘致に奔走し、ボウリングの国体参加に大きな歴史を飾ると共に、平成19年県高校体育連盟にも参画し、本県ボウリングの振興に大きく貢献した。
3	ひがしあらかわちやうしやう 東新川 長詳	陸上競技	永年本県陸上競技協会の役員を務める傍ら、日本を代表しユニバーシアード大会等で活躍する多くの競技者を育てた。本県の陸上競技の振興発展に尽くしたその功績は大である。
4	たかえす よし お 高江洲 義夫	サッカー	1966年設立発起人として沖縄サッカー協会の設立に参画、普及発展の礎に貢献。1973年2代理事長として就任後、若夏国体の開催任務を果たす。以後、1998年までの25年間、県内サッカー競技の普及発展に貢献。2000年副会長に就任、2002年の3年間、副会長としてサッカー協会発展に貢献。
5	たまなは あり のり 玉那覇 有紀	テニス	沖縄県テニス協会の三役を28年の永きに亘り勤め、本県テニス競技の普及発展に尽力した。また、ジュニアからシニアまでの幅広いテニス大会を開催し、常にリーダーとして県テニス協会の発展に貢献した。
6	こう き りやう せい 幸喜 良正	ボクシング	教職在職中は、多くの生徒にボクシングを通して指導し、育成に努めた。A級審判員として、沖縄県大会において審判長を務め、競技運営に関わる。長年に渡り理事長、副会長、会長と沖縄県ボクシング連盟の役員として沖縄県のアマチュアボクシング界発展のために尽力されている。
7	すながわ ひで お 砂川 日出夫	バレーボール	昭和40年、本協会理事就任を皮切りに協会運営に貢献。昭和26年には、理事長の運営の要として尽力し成功に導いた功績は大なるものがある。またその後、平成23年まで副会長・会長・名誉会長として、協会発展並びに後進の育成に尽力した功績は大なるものがある。
8	わにや まつてる 和仁屋 松輝	バスケットボール	本県バスケットボールの振興、発展に長年にわたり寄与し、本協会の役員として事務局、副会長、会長を歴任した。また、車いすバスケットの公認審判として、障害者スポーツの普及にも寄与している。現在は沖縄県クラブバスケットボール連盟会長として後身の指導に当たっている。
9	にし けん お 西里 健男	レスリング	海邦国体後、長期にわたり会長職を務めレスリング協会の発展に寄与された。現在は顧問として協会への助言等をお願いしている。
10	いは せい こう 伊波 清孝	ウエイトリフティング	昭和30年代にウエイトリフティング競技者として活躍し、その後、沖縄県ウエイトリフティング協会の役員として競技の普及発展に努め、競技力の向上はもとより本会の組織強化に尽力した。本会の黎明期からウエイトリフティング競技が沖縄県のお家芸と言われる今日に成長させるなど、本県スポーツの振興に多大な貢献をした。
11	か よし なる 嘉陽 宗陰	ハンドボール	23年間の長きにわたり会長を務め、本県ハンドボールの普及発展に大きく貢献した。また、49回の全国制覇達成はハンドボール王国の礎を築いた。
12	もろ へい じ 森 兵次	自転車	昭和55年に沖縄県アマチュア自転車競技連盟を発足させ基礎を築いた。昭和62年行われた海邦国体において、選手強化、競技運営に重要な役割を担った。近年国民体育大会で種目別の入賞者を多く輩出している。2012年のロンドンオリンピック大会ロードレースの日本代表選手を育成した。
13	こは ぐら ひろし 古波蔵 廣	野球	永年にわたり、本連盟の理事及び会長職等数々の要職を歴任し、本県軟式野球の普及発展に寄与したその功績は誠に大である。また、名護市役所在職中は公務に関連する栄えある賞を受賞し、その職責を全うした。更に加えて地域に於いても青少年育成活動に多年力を注ぎ、地域社会のリーダーとして幅広い分野で活躍した功績は多大である。
14	はらだ なお おさ 原田 尚房	馬術	第42回国民体育大会沖縄海邦国体開催に伴って設立された沖縄県馬術連盟設立委員会委員長を務め、海邦国体馬術競技天皇杯・皇后杯獲得に監督として多大な貢献をされた。以後本県の馬術競技における牽引役として後進の育成に携わり現在に至るまで指導者として活躍されている。

◆特別功労賞◆

No.	氏名	競技	功績概要
15	みやぎ すすむ 宮 城 進	柔道	長年にわたり柔道の指導普及発展に寄与すると共に当連盟の常任理事、副会長を担当精励し、沖縄県の柔道の発展と向上に多大なる貢献をした。現在も県柔連の会長として柔道の普及発展・青少年健全育成・競技力向上のためご尽力されている。
16	たば のぶ 田 場 典 宣	剣道	県剣道連盟の役員として、多年にわたり尽力するとともに、剣道の高段者及び県警の師範として、指導力を発揮し、県代表として国民体育大会や各種大会、講習会に参加し、本県剣道連盟の普及に大きく貢献している。
17	おおみ ひろし 大 見 博 志	ラグビー フットボール	18年にわたり会長を歴任し、沖縄県初のトップリーグ(プロリーグ)の誘致を2回成功に導き、トップリーグ関連事業の門戸を開ききっかけとなった。長く県協会への多大な寄附が毎年あり、その成果ジュニアの育成に大きく貢献し、沖縄初女子ラグビー日本代表、高校日本代表、トップリーグ選手の人材輩出するきっかけとなった。
18	てるや こうさい 照 屋 幸 栄	空手道	平成14年度より副会長を5期10年務め、平成24年度より会長に就任。平成26年度8月末、日本初開催となる世界空手道連盟主催「KARATE 1プレミアムリーグ2014沖縄大会」を成功に導いた。
19	なが はま ふみこ 長 濱 文 子	なぎなた	連盟発足以来、現在まで長年にわたり、会長として連盟の普及・振興・強化等に心身を惜しまず貢献している。また、長年に渡り連盟の普及・強化に多大の資金を提供し、組織強化に貢献。
20	な しろ ひとし 名 城 均	パワー リフティング	今年(平成27年)40周年を迎える沖縄県パワーリフティング協会において11年間の長きに渡り、理事長職を努められた。理事長職を退かれた今現在も、パワーリフティング競技を通じ沖縄県民の健康増進のため、日々努力されている。
21	おおしろ てつお 大 城 哲 夫	ゲート ボール	昭和49年10月に熊本市でゲートボールに出会って以来、間髪を入れず沖縄県に導入、スポーツ教室を通じて普及を重ね、昭和55年5月沖縄県ゲートボール協会(現沖縄県ゲートボール連合の前身)設立に携わり、今日まで理事長を務めゲートボール競技の普及に尽力している。
22	みやぎ はじめ 宮 城 一	名護市体協	名護市体育協会の創設に携わり、30数年にわたり本協会の幹事長、理事長、副会長、会長を務め、名護市体育協会設立後は理事長として、組織の強化と事業運営の安定化を図り、本協会の礎を築きました。NPO法人名護市体育協会の顧問として指導・助言を行おうなど、本市の競技力向上及びスポーツの普及発展に貢献しています。
23	やま しろ きだ 山 城 貞 雄	うるま市体協	永年にわたり市体育協会役員、市スポーツ少年団育成、スポーツ推進委員、陸上競技等の普及発展や各種大会の企画実施、組織運営に尽力、本市及び県全体のスポーツ振興発展に寄与した。
24	とみもと ゆづけん 富 本 祐 憲	浦添市体協	昭和45年の理事に就任以来、副理事長、副会長、会長を歴任し、本会の主要役員として、本市スポーツの普及発展に尽力した。
25	いしかわ ひでお 石 川 秀 雄	那覇市体協	平成14年には、昭和21年に設立した那覇市NPO法人化を機に那覇市体育協会の会長に就任され、同協会の組織強化、加盟競技団体の競技力向上に努めるとともに、那覇市の健康・体力づくりの日常化を図るため、生涯スポーツ・レクリエーションの普及推進にとりくんだ。
26	とくだん こうしん 徳 元 孝 進	糸満市体協	永年にわたり糸満市体育協会の理事長、副会長、会長として組織の運営充実強化や競技スポーツの振興発展及び市体協のNPO法人化(指定管理者)に向けての取り組み等に多大に尽力した功績。また海邦国体や全国規模の大会の組織づくりにも貢献され生涯スポーツの普及発展に尽力した功績は大きい。
27	なが はま ひろふみ 長 濱 博 文	宮古島市体協	宮古島市体育協会、理事長を10年9ヶ月務め、その間に常任理事会の定例化を図るなど組織強化に努めた。その間、県民体育大会先島開催が2度行われるなど県体協と連携し県民大会の普及に努めた。
28	きんじょう しゅうしち 金 城 昭 七	県体協	平成11年4月から平成13年3月まで会長を務め、本県スポーツの普及・発展に貢献した功績。
29	いな みね けいいち 稲 嶺 恵 一	県体協	平成13年4月から平成19年3月まで会長を務め、本県スポーツの普及・発展に貢献した功績。
30	なかいま ひろかず 仲 井 眞 弘 多	県体協	平成19年4月から平成26年12月まで会長を務め、本県スポーツの普及・発展に貢献した功績。